

青森県理事を拝命して

大泉開発（株）代表取締役社長
坂本 興平



●はじめに

一昨年1月、先代（坂本和彦）社長が他界し、取締役会を経て2月1日より代表取締役社長に就任致しました。他界後の協会理事残任期間は弊社（坂本和記）会長が仰せつかることとなり、その後今年5月13日の定期総会において、青森県理事を新任で仰せつかりました。

早坂理事長を始め、大先輩方のご指導、ご助言を賜りながら、本協会発展の為、大変微力ではございますが尽力して参る所存でございます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

●生い立ち

私は1979年1月に青森県北津軽郡鶴田町で生まれました。小学校・中学校・高等学校とも地元の青森県内の学校に通学しました。部活動は、剣道をひたすらやっておりました。父親から「武道をやれ」という教えもあり、小学校低学年から道場に通り、中学校卒業までずっと明け暮れておりました。お蔭で、地方大会ではそれなりの成績を収めることができました。高等学校に入学後、進学クラスに入ったため、部活動は【ある一定の成績以上の者】に限定され、浅学非才な私は部活動を辞めることとなります。また、すべてが成績順の為、クラス的人员編成も男性が7名・女性が29名という特殊な高校生活を送っておりました。男性が7名で一番苦労したのは、毎年開催される球技大会等（サッカー・バスケットボール・ソフトボール・バレーボールなど）分刻みですべての種目に参加したことです。今となつては、非常に楽しい思い出です。

その後、父親と同じ関東地方の大学へ進学し勉強は人並みにしておりました。大学時代しかできないということもあり、建設業以外の様々な業種のアルバイトを経験致しました。アルバイトで稼いだお金で、大型

自動二輪の免許を取得し、ハーレーダビッドソンを購入しております。夏季休暇は、友人と全国各地へツーリング等を楽しむ大学生活でした。

●会社生活

大学では土木施設工学を専攻し、2001年就職氷河期ではありましたが、たまたま運良く大手ゼネコンに入社することが出来ました。入社後大きな現場への配属が決まり、初めての現場は6工区全長26.455km（当時、陸上では世界最長）のNATM工法による山岳トンネルの現場でした。最初は携帯の電波も通じない国有林地内の現場の為、今振り返ると2週間程度は戸惑うことが多かったと感じております。ただ私が幸せだったのは、上司に恵まれたということです。この現場に在籍していた2005年6月に現在の家内と結婚しております。仲人は当時のトンネル現場の所長ご夫妻にお願い致しました。今現在も、公私ともにご指導をいただいております。

24時間稼働の現場でしたので、JV他社協力業者と共に（4年6ヶ月）朝から晩まで同じ現場事務所、宿舎で生活を送り、様々なことを勉強させていただきました。今現在の会社においても、この初めての現場での経験が非常に役立っていると心から感謝をしております。

その後、2005年9月より、東北新幹線の駅舎部を跨ぐ区間（全長1121m）の高架橋工事の現場に赴任して参りました。明かり工事の経験が初めてでしたので、こちらの現場も、最初の2週間程度は戸惑うことが多かったかもしれません。場所打ち杭（φ1300～φ1800）の施工から、新幹線のレールが載るまで（3年間）従事しておりました。

そんな中で2007年9月、先代（坂本和彦）社長のガン手術1回目実施。この段階で、

リンパへの転移も確認される。良くなると信じてはいたものの、様々な方にご相談し、2008年9月ゼネコンを退社致しました。素晴らしい上司、同僚に恵まれ、個人的には「もう少し勉強したかった。」というのが本心です。その後、翌10月より大泉開発(株)に入社。入社後は、また新入社員のつもりでただひたすら仕事に専念する毎日でした。

2010年1月、先代社長逝去。変化に対応するのは比較的、得意な方だと勝手に思っておりましたが、あまりの変化の大きさに、また戸惑うこととなります。今現在は、地質調査業協会の先輩方を始め様々な関係各位の皆様のお蔭で、毎日四苦八苦しながら楽しく仕事をさせていただいております。この場をお借り致しまして、心から感謝、御礼申し上げます。

●おわりに

2011年は、人間の力ではどうにもできない天災地変が発生してしまいました。生かされたものの使命として、この地質調査業協会を通じ、大変微力ではございますが少しでも社会貢献していければと思います。また、先代社長の逝去後、様々な方々から、たくさんのご恩を頂戴して参りました。私自身、いただいたご恩を少しでも恩返しできるよう、より一層努力して参る所存でございますので、どうか素晴らしい大先輩方、今後ともご指導賜りますよう心からお願い申し上げます。また、役割果たして役職とすべしを肝に銘じ、若輩者ではございますが青森県理事の職責を果たせるよう、邁進して参ります。

